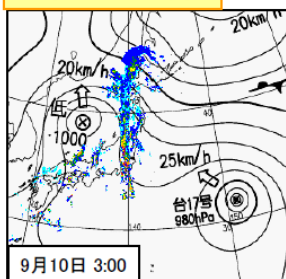


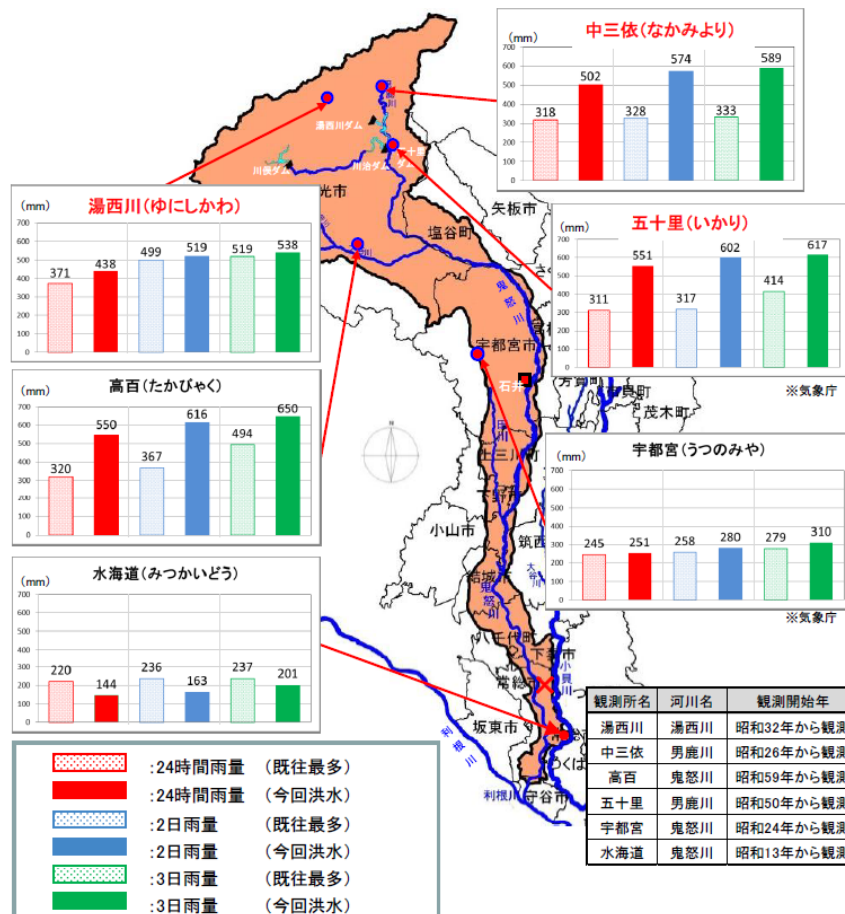
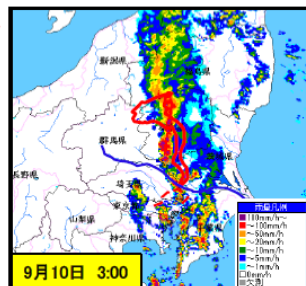
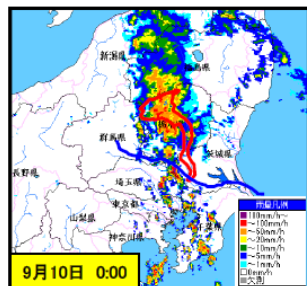
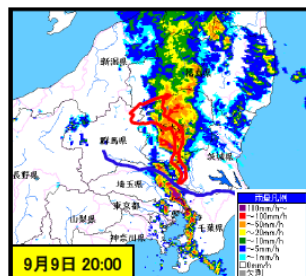
平成27年9月(関東・東北豪雨)における 洪水調節効果

- 平成27年9月の台風第18号(関東・東北豪雨)では、台風第18号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響により、鬼怒川流域では「線状降水帯」が発達し記録的な大雨となった。(9月10日0:20 栃木県に大雨特別警報発表)
- 9月9日から9月10日にかけて、栃木県日光市五十里観測所では、昭和50年の観測開始以来、最多の24時間雨量551mmを記録するなど、各観測所で観測史上最多雨量を記録した。

気象・降雨の概要

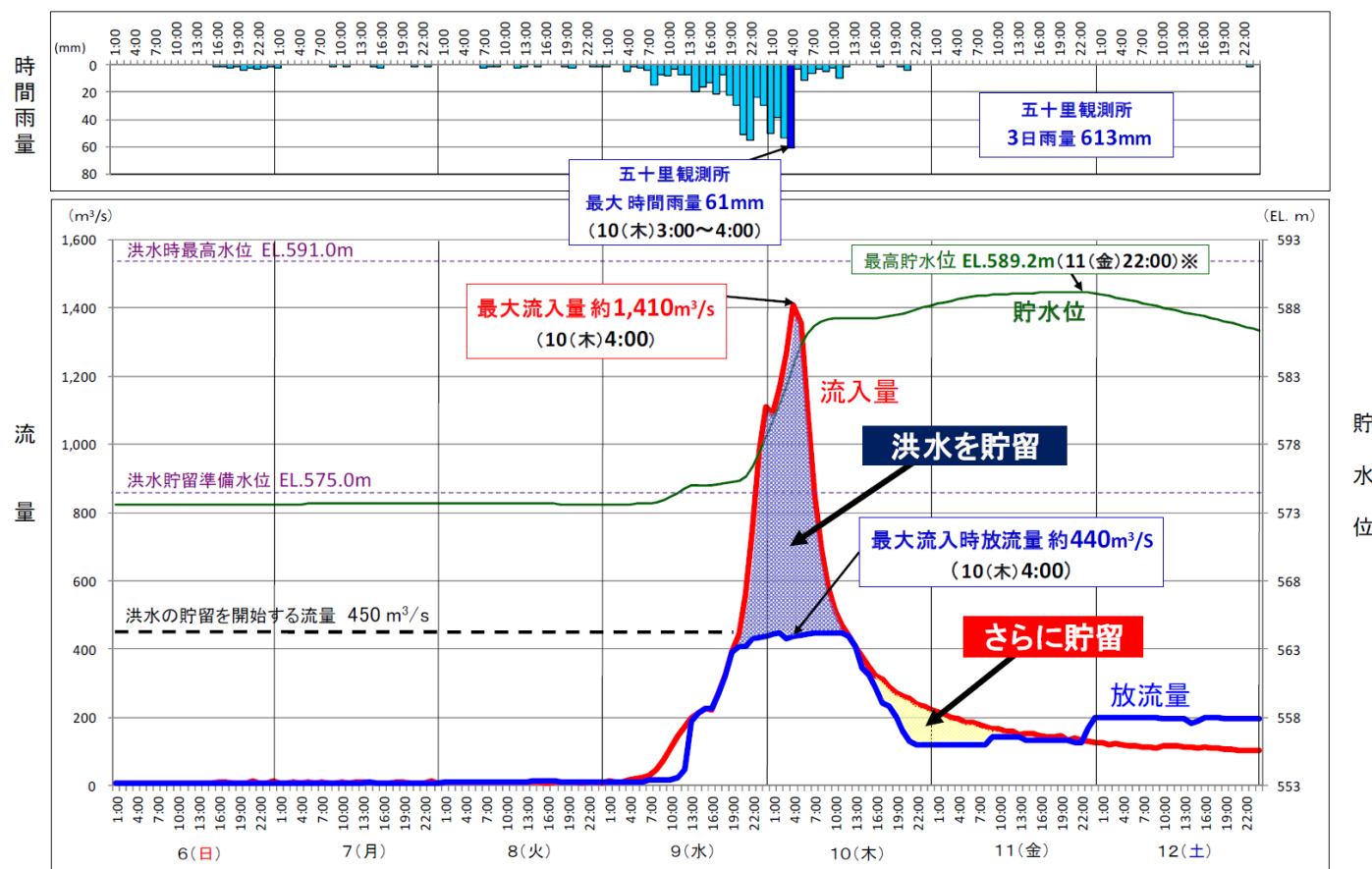


レーダ雨量図



五十里ダムの洪水調節 平成27年9月(関東・東北豪雨)

■五十里ダムへの流入量は最大約 $1,410\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約7割(約 $970\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約3割(約 $440\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。その後、ダムの貯留状況やダム周辺の降雨状況を見ながら、下流河川の水位低下を図るため、ダムにさらに貯留した。



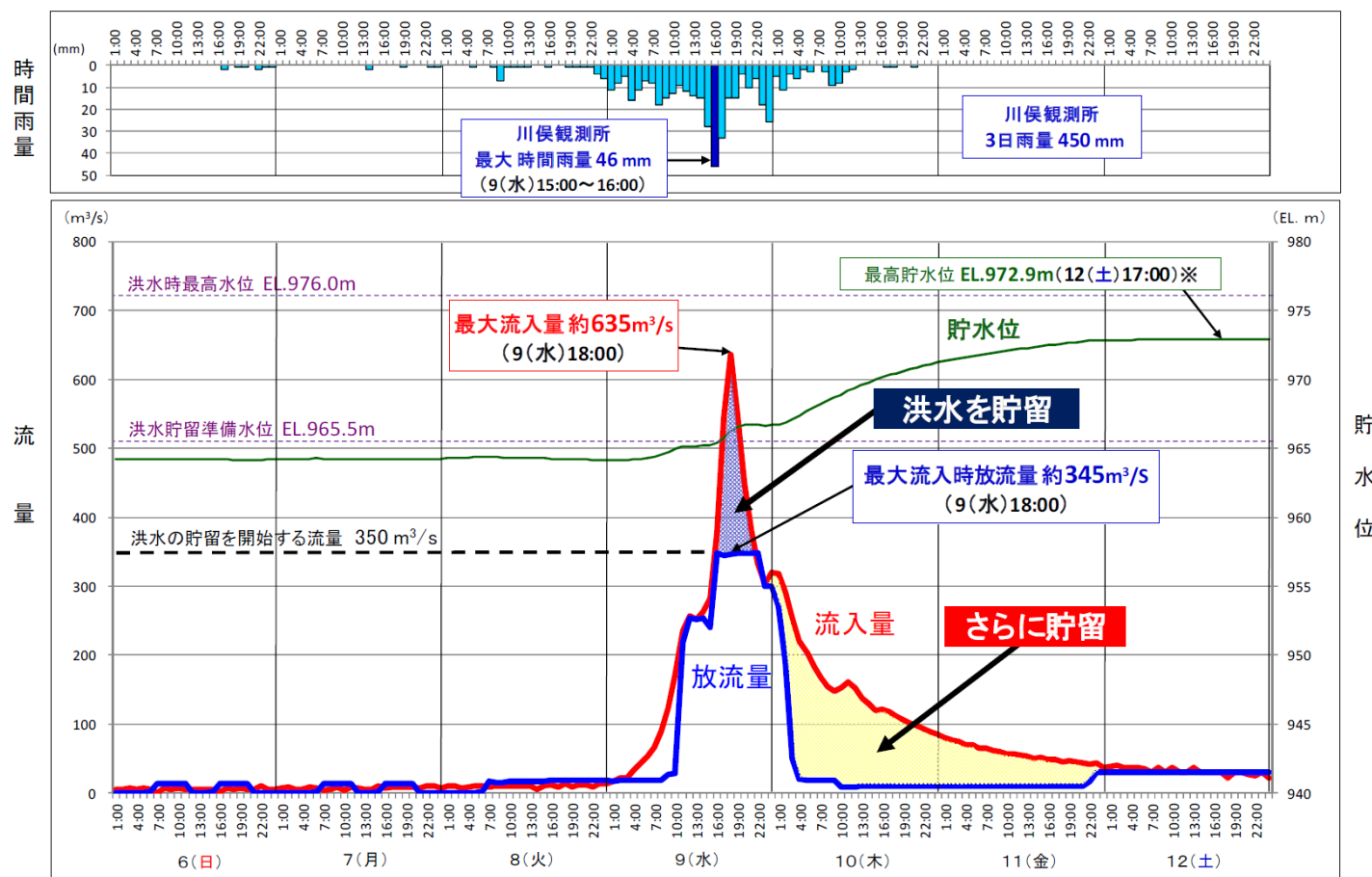
※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。

※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

五十里ダムの調節状況と貯留状況

川俣ダムの洪水調節 平成27年9月(関東・東北豪雨)

■川俣ダムへの流入量は最大約 $635\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約5割(約 $290\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約5割(約 $345\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。その後、ダムの貯留状況やダム周辺の降雨状況を見ながら、下流河川の水位低下を図るため、ダムにさらに貯留した。



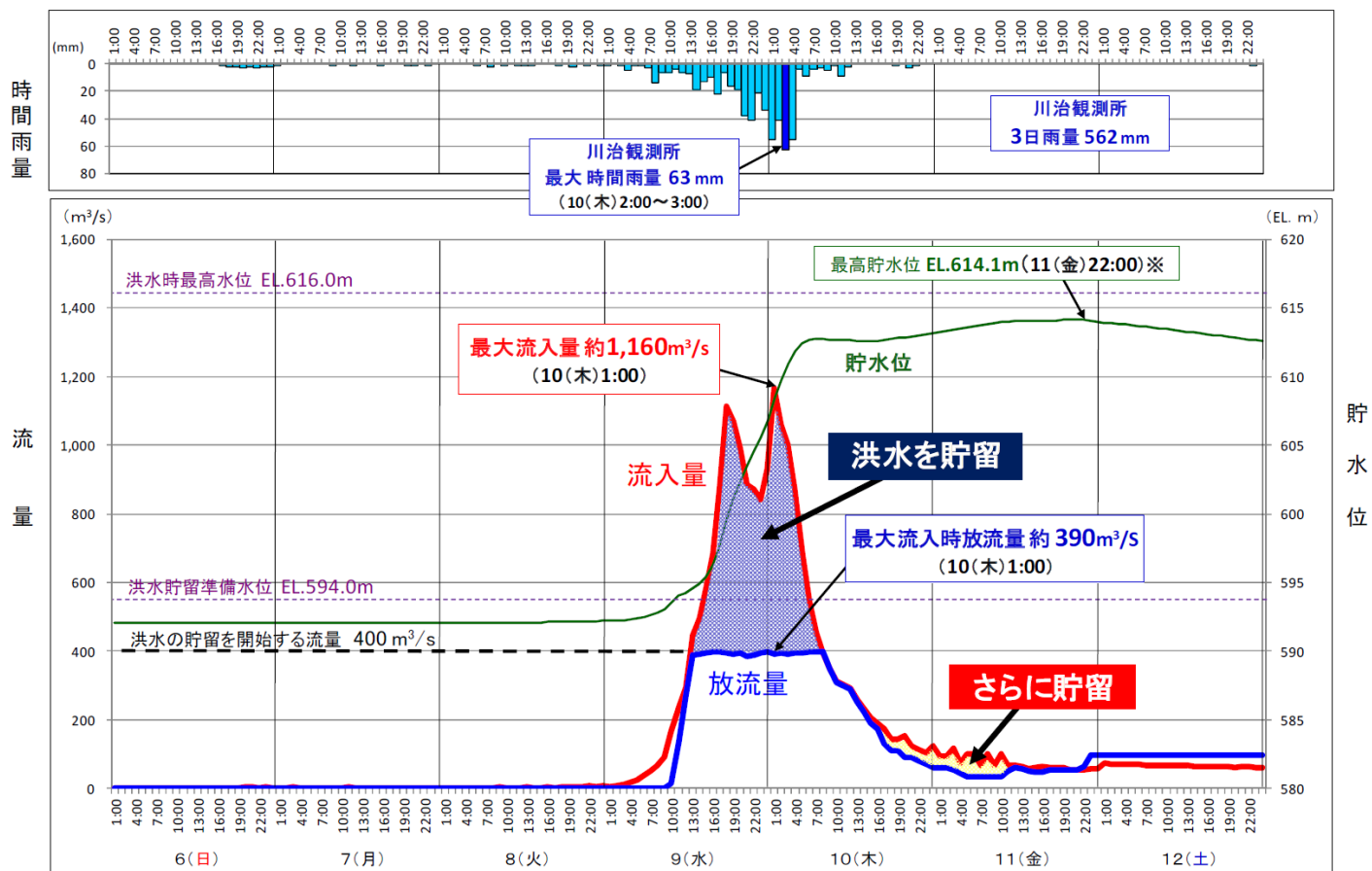
※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。

※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

川俣ダムの調節状況と貯留状況

川治ダムの洪水調節 平成27年9月(関東・東北豪雨)

■ 川治ダムへの流入量は最大約 $1,160\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約7割(約 $770\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約3割(約 $390\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。その後、ダムの貯留状況やダム周辺の降雨状況を見ながら、下流河川の水位低下を図るため、ダムにさらに貯留した。



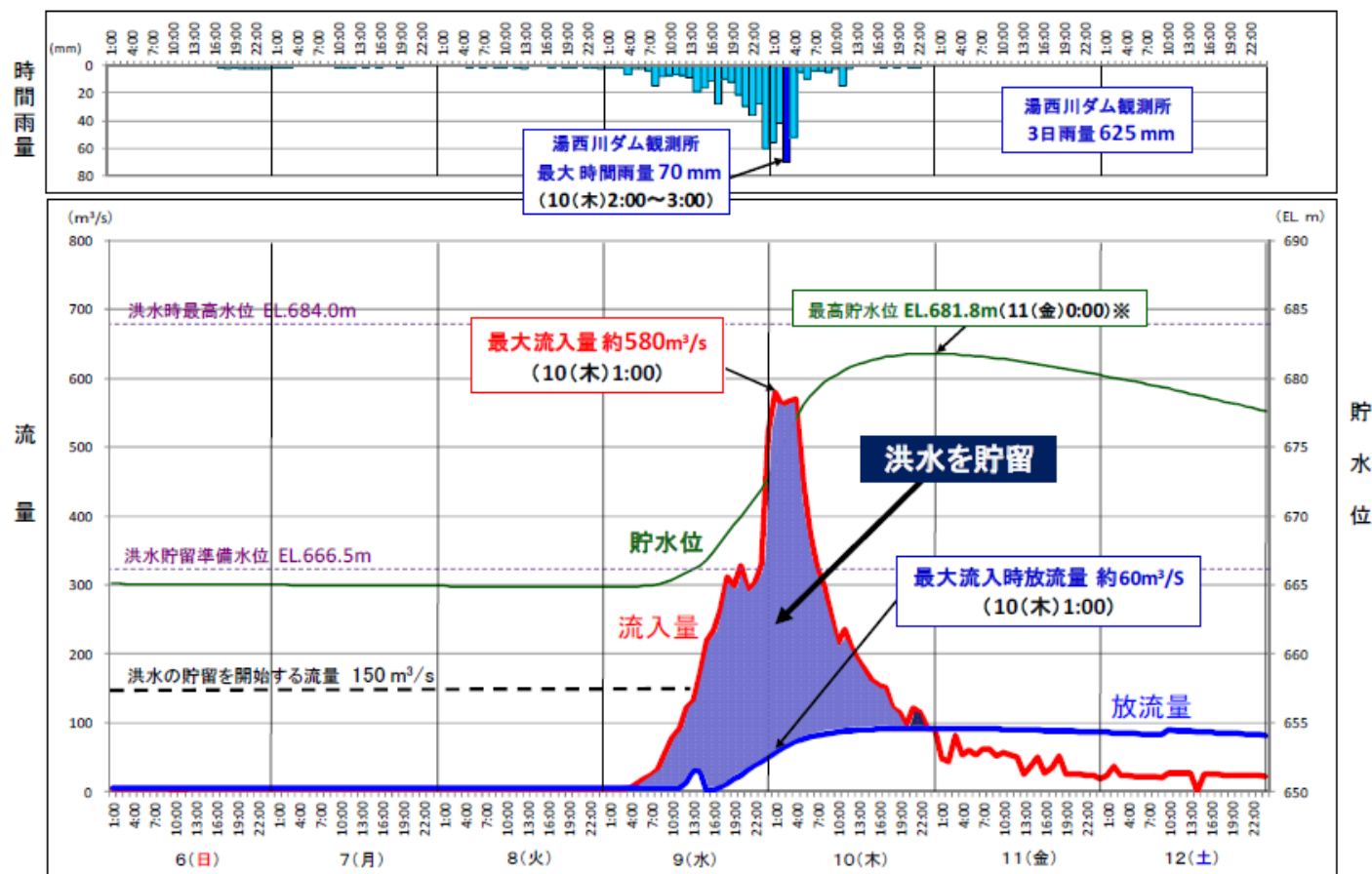
※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。

※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

川治ダムの調節状況と貯留状況

湯西川ダムの洪水調節 平成27年9月(関東・東北豪雨)

- 湯西川ダムへの流入量は最大約580m³/sに達したが、そのうち約9割(約520m³/s)を貯留し、下流への放流量を約1割(約60m³/s)に抑えた。



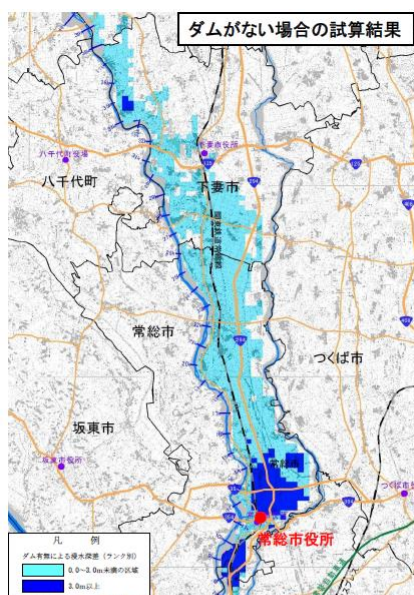
※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。

※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

湯西川ダムの調節状況と貯留状況

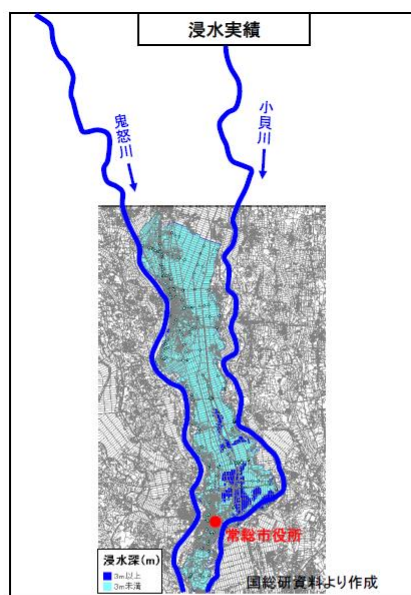
平成27年9月(関東・東北豪雨)における 洪水調節効果

- 平成27年9月の台風第18号出水では、鬼怒川下流域において流下能力を上回る洪水となり、7ヶ所で溢水し常総市三坂町地先で堤防が決壊(9月10日12:50)した。
- 鬼怒川上流ダム群では、できる限り洪水を貯める操作を行い、4ダムで約1億 m^3 の水を貯留した。
- 鬼怒川上流ダム群による洪水調節により、鬼怒川下流(平方～水海道)の水位を25～56cm低下させるとともに、鬼怒川下流左岸の氾濫水量を概ね2/3、浸水深3m以上の浸水面積を概ね1/3、浸水戸数を概ね1/2に減少させた。



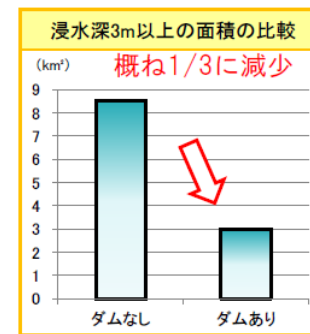
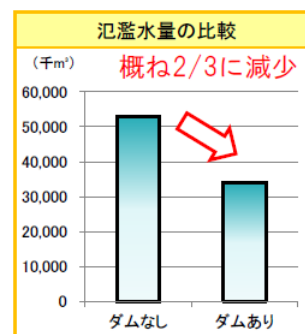
ダムがない場合の試算結果	
浸水面積	約60 km^2
氾濫水量	約5,300 万 m^3
浸水戸数	約18,000 戸
浸水深3m以上の浸水面積	約8.5 km^2

※上記の数値は、全川の効果のうち、鬼怒川左岸を対象として表示



浸水実績	
浸水面積	約40 km^2
氾濫水量※注	約3,400 万 m^3
浸水戸数	約9,300 戸
浸水深3m以上の浸水面積	約3.0 km^2

※地盤高は国土院が公表している基礎地図情報のデータを使用
※地盤高、及び国土省が実施した浸水痕跡調査(約300箇所)の結果を
基に浸水位・浸水深を推定
※数値は常総市域を対象
※浸水戸数は国土交通省による調査結果である。
※注・計算により再現



ダムの効果による 各地点の水位低下量 (cm)	
地点	効果 (cm)
平方水位観測所	約56
決壊箇所(21.0k)	約25
鬼怒川水海道 水位観測所	約25

※シミュレーション結果に基づくものです。

※数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。